

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 二島 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- 生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

- 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

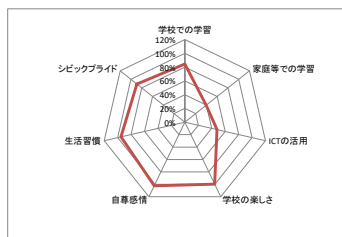
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

- 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	選択問題の無解答率が低く、問題に取り組もうとする意識はある。しかし、自分の考えを文章にすることや漢字・表現技法・資料や文章の読み取りなどの基礎的な学力を身につけることが大切である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	分の成分の順序や照応について理解しているかを見る問題。	下回っている
	努力が必要な問題	条件を満たし、自分の考えを文章にする問題。また、文章を要約する問題。	

数学	全体的な傾向や特徴など	具体的に数字を当てはめて答える問題に対しては、試行錯誤をしながら問題に答えることができる。基礎的な用語・計算・式変形、及び文章問題を問われている内容を解決していくことが苦手である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかを見る問題。	下回っている
	努力が必要な問題	事象を数学的に解釈し、説明する問題や問題解決の過程や結果を振り返り新たな性質を見出す問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「自分にはよいところがあると思いますか」や「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対して肯定的な回答をしている生徒が90%以上おり、自己肯定感が高い傾向があるということがわかる。また、「学校に行くのは楽しいですか」や「友達関係に満足していますか」の質問に対しては、85%以上の生徒が肯定的な回答をしている。
・日常的に家庭学習をしている生徒の割合が低く、家庭学習を習慣化できるような手だてや工夫を行う必要がある。
・学校での学習については、必要であると感じている生徒の割合は高いが、内容の理解に課題のある生徒が多い。また、グループ活動で互いの意見を聞きながら解答を導き出すことが難しい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- 教科に関する取組

・自ら課題を設定し、情報収集する中で、協働的活動を行い、自ら考え整理し、表現できるよう授業の工夫を改善しながら主体的に学べるよう、基礎・基本の定着を目指す。（グループ活動・習熟度別学習・補充学習）

・特に、数学に課題があるので、学習時間を有効活用し、補充学習を行っている。内容は、基礎的・基本的な計算問題を中心に行っている。グループでの教え合い活動が中心ではあるが学年によっては、習熟度別のクラスに分けて学習を進めることを継続する。

- 家庭生活習慣等に関する取組

・月に1回、生活アンケートを実施し、担任が学校生活の困り感だけではなく、家庭での学習習慣や、生活習慣を知ることができるようにし、状況によってはチャンス相談等で、生活改善を進めていく。